

# 互いのよさを認め合い、 仲間と助け合える児童を育てる道徳の授業づくり ～多様な考えに触れ、自己の考えを深める活動を通して～

特別研修員 道徳 齋藤晴紀 (小学校教諭)

## 児童の実態

- ・自分のやるべきことについては、責任を持って取り組むことができる。
- ・他人のことを考えて行動したり、仲間と助け合いながら活動したりすることに課題がある。

実践授業 主題名「友だちだから」 資料名「ケンくんのこと」 2-(3) 信頼・友情(光文書院)

主発問:断った理由を知ったぼくは、どんなことを考えただろうか。

## 手立て1 多様な考えに触れる交流

①教室内を歩き回り考えを伝え合う交流をする。  
\*自分と違う考えを記述する。

○多様な意見に触れ、自分の考えとの相違点に気づくことで、自信を持って考えを言える。



なるほどね

同じ考えだね

何でそう思うの?

②友達と交流した児童は、ネームプレートを移動し、ネームプレートを確認しながら、交流できていない児童と交流する。

○ネームプレートの移動状況を見ながら、まだ交流活動が終わらない友達に声をかけ、意欲的に交流する。



[名前プレートを見て]  
○○くんが交流できていないから交流しよう。

交流した人は、右へ移動させる

・多様な考えに触れられる。  
・自分の考えに自信が持てる。

## 手立て2 考えを深める活動

児童が意見を発表して、児童の意見を基に、教師が、**切り返しの言葉(ゆさぶり)**を掛ける。

### 切り返しの言葉の例

- ・それどういうこと?
- ・今の考え分かった?
- ・そう思うよね(道徳的価値に近付けていない児童の考えに共感する)
- ・なるほど

ケンくんの立場になって考えてあげればよかった。

(指名)本当は遊んでいるんじゃないのと思った。

最初「遊んでるんじゃないの」って思ったんだから、そう思うよね?

思いませんよ。理由を聞いたから。

断られたときは、(前の発問を指差しながら)こういう気持ちだったんだよね?

理由を聞いたからそうは思わない。気持ちが変わった。

なるほど、理由を聞いたことが大切だったと言うことだね。

ケンくんのことを信頼してたから、約束してたけど、家の事情があったから、無理に誘うのは悪いからという気持ちに変わった。

考えを深める活動の前のAの考え

- ・本当は遊んでいるんじゃないのか
- ・ゲームしてるんじゃないのか
- 相手のことを考えない発言

変化

考えを深める活動後のAの考え

- ・分かってあげればよかった。
- ・状況が分かって、気持ちの変化があった。
- 相手のことを考えられた発言に変わった

・児童の考えを全員で共通理解できる。  
・自己の考えを深められる。

道徳的価値への自覚が深まる

互いのよさを認め合い、仲間と助け合える児童

## 成果と課題

- 交流をすることで、相手の考えていることを認めながら、共に助け合って物事を解決しようとする意欲が高まった。
- 今後、活動の方法や時間配分を工夫して、深める活動をより充実させる必要がある。